

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	ニンジャ	Lv.1:	ニンジャ	性別	男
称号クラス				年齢	16
種族	ヒューリン			境遇	渡来
出自 (効果)	一般人			目標	奪還

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	16	12	8	9	9	9
ボーナス	3	5	4	2	3	3	3
クラス修正	0	2	2	1	1	0	0
他修正							
能力値	3	7	6	3	4	3	3

HP	44
MP	43
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ジェミニナイフ	至近	0	4	0	0	0	0	0
左手	ジェミニナイフ	至近	0	4	0	0	0	0	0
頭部	黒頭巾				1	1			
胴部	黒装束					6			
補助									
装身具	シーフズツール								
能力値			7	0	6	0	3	10	8
スキル									
その他									
総計(右)			7	4					
総計(左)			7	4	7	7	3	10	8
総計(両)			7	8					m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	7			7	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	3			3	+ 2 d
アイテム鑑定	3			3	+ 2 d
魔術判定	3			3	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
野営道具	手入れ道具
ベルトポーチ	MPポーション*4
バックパック	肉と野菜のスープ
にく二個	ポーションホルダー
野菜二個	理力符：水
冒険者セット	サバイバル包丁
MPポーション	ファインだがー
ダガー	はぎ取り分
ダガー売却	借金 (アタラクシア)
ハット売却	
クロースアーマー売却	

現在重量： 17 所持金： 52 預金・借金：

最大重量： 17

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
プロビデンス	★	-	パッシヴ	-	-	-		
効果： フェイトによるダイス増加数上限が【幸運】+1となる								
ワイドアタック	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中		
効果： 武器攻撃を行う。命中判定の達成値に+SL								
アームズマスタリー：短剣	★		パッシヴ					
効果： 命中判定に+1D								
アンビデクスタリティ	★		パッシヴ			自身		
効果： 「種別：短剣」の武器を「右手」と「左手」にそれぞれ装備している場合に効果が有る。二つの武器の「命中修正」「攻撃修正」「行動修正」を合計し、「装備部位：両」のひとつの武器として扱う。二つの武器の「効果」は全て発動、使用することが可能だが、宣言が必要なものは同時に使用できない。								
ブラッディーフィート	★	5	マイナー		自身	自動		
効果： 命中判定に+1D								
マーダースキル	2		パッシヴ		自身		5まで	
効果： 攻撃がクリティカルした場合、ダメージにクリティカルでの増加とは別に+[SL]Dする。								
踏み込み斬	★	8	任意				1/1SN	
効果： シーン攻撃								
バタフライダンス	★		パッシヴ					
効果： 回避判定に+1D								
デスブロウ	1	9	DR直前		自身	自動	1/SN	
効果： 命中判定でクリティカルしたときのみ使用可能。その攻撃のダメージに+[SL*10]する。								
ナイフパリア	★	3	DR直後		自身	自動		
効果：右手と左手に「種別：短剣」を装備している時のみ使用可能。あなたが受ける物理ダメージを-[あなたが装備している短剣の攻撃力の合計]する。								
ビースティング	1	4	メジャー	武器	単体	命中	3まで	
効果： 命中に+ (SL+1) D								
スペシャライズ：短剣	1		パッシヴ					
効果：取得の際、種別を1つ選択する。習得できるスペシャライズは1種別のみ。選択した「種別」の武器を使用した命中判定に+SL,ダメージに+SL。								
ベアアップ	1		パッシヴ					
効果： 精神系のリアクションに+1D								
トレーニング：器用	1							
効果： 器用基本値+3								
ファーストエイド	1							
効果： 10の器用成功で戦闘復活								

あの事件が起きるまでは
 アイツはなんてことない普通の高校生だった
 俺とアイツは昔からの馴染みで
 アイツの両親は二人とも学者で
 アイツが生まれる前から世界中をあっちこっち旅していたらしい
 だからアイツの家に親がいることは稀で
 アイツ自身も親の顔をうる覚えらしい
 それでもアイツは一人じゃなかった
 アイツには姉がいた
 アイツよりも4つ上で
 俺もあの人には頭が上がりず
 俺はいつも「姐さん」と呼んでいた
 姐さんはそう呼ばれるといつも困った笑顔で「そんなに男勝りなつもりはないんだけどな。お姉さんは」と呟っていた
 アイツはそんな姐さんのことを慕っていて
 いつもいつも「姉さんはいつか絶対に幸せになるべきだ!」と言っては
 姐さんに「あなたが元気でいるからお姉さんはいつも幸せよ」と言われて何も言えずに黙る
 そんな光景が日常だった
 あの日、姐さんを失うまでは

あの日は朝からどんよりした雲が漂っていて、雨が降り続いてた
 部活から帰ると電話がかかってきた
 嫌な天気もあって嫌な予感もはしていたが

